

シラバス記入用紙

授業科目名: 総合英語 II C

担当教員名: 岡村光浩

履修上の注意: プレイスメント・テストの結果に基づき授業が指定するクラス・時間帯の内から選んで受講することを原則とする。なお総合英語 II の履修には総合英語 I の単位取得が必須である。

授業目的・方針、到達目標(200文字程度で)

「読む・書く・聞く・話す」の4技能を総合的に訓練する。まず教材(クラスにより異なる)の英文を声に出して読む/パートナーと会話練習することで英語のリズムを体に覚え込ませる。読み物の部分では、基礎英文法を確認しつつ文意を的確に把握する練習をすると共に、本文聞き取りや音読を反復練習する。教材についての感想を英語で話したり書いたりする練習も行っていく。英語で情報を input するための基礎力を鍛え、失敗を恐れず output する姿勢を身につけることを目標とするが、海外事情や文化についても、楽しみながら理解を深めてもらいたい。

授業内容(各回 30文字程度で、15回全てをご記入ください)

- 1: オリエンテーション(授業のねらい、テキストについて、学習の進め方、その他)
- 2: Unit 9 Social Enterprises 世界を変える社会的企業
- 3: Unit 9 (続き)
- 4: Unit 10 Night School in Kathmandu 発展途上の教育
- 5: Unit 10 (続き)
- 6: Unit 11 Claim Your Rights and Change Society!
- 7: Unit 11 (続き) 自分の権利を主張して、よりよい社会を生みだそう
- 8: Unit 12 Ageism 年齢による差別や偏見をなくすために
- 9: Unit 12 (続き)
- 10: Unit 13 Productive Aging 高齢者も貢献できる社会づくりとは?
- 11: Unit 14 Social Care for Older Adults 高齢者の多様な経験を生かそう
- 12: Unit 15 Psychiatric Social Workers 当たり前を取り戻すために
- 13: Unit 15 (続き)
- 14: Unit 16 How to Live and How to Die 生と死に向き合いいのちを考える
- 15: Unit 16 (続き)、まとめ

評価方法(試験、レポート提出、課題提出など)

出席状況(重視)・平常点(宿題・予習状況・受講姿勢)・小テスト/提出課題・定期試験により総合的に評価する。
準備学習

中学・高校英語、特に基礎的な英文法と語彙を徹底的に復習しておくことが望ましい。

使用テキスト

中野洋子、ニューケリア・ドネリ『Living in Society: From People to Persons』南雲堂、2011年

参考テキスト

鈴木希明編著『総合英語 be』いっぴいな書店、2009年。ほか担当講師より随時紹介、またはプリント等を配布する。
各自準備物(受講の際、準備させる物があれば具体的に)

辞書(書籍版中辞典を推奨):学研『アンカーコズミカ英和』,大修館『ジーニアス英和』,三省堂『ウィズダム英和・和英』等
その他(注意事項、受講生へのメッセージなど)

1. テキストは総合英語 I C・II C で同じものを継続使用する。十分予習した上で授業に臨むことは大前提である。
2. 欠席は原則 4 回まで(予備登録期間含む)。なお遅刻 30 分以上は欠席扱いとする。
3. 授業内容についてはクラス毎の進度等により調整する場合がある。その他詳細は担当講師より指示する。